

危険な女たち

アガサ・クリスティー原作

ジツと見つめて下さい、女は恐ろしいですか。
心に潜む殺意が現実になったとき 女たちはとまどい、そして微笑みあった。

原作 アガサ・クリスティー

「ホロー荘の殺人」

(早川書房刊)

野村芳太郎監督作品



大竹しのぶ
藤真利子
和由布子
寺尾聰
三田村邦彦
池上季実子
夏八木勲
小沢栄太郎
北林谷栄
石坂浩二

製作 野村芳太郎
脚本 野村芳太郎
撮影 古田俊郎
美術 川又平
音楽 デザイン 森田一夫
主題曲 細野晴臣
唄 安野ともこ
イメージ 立木義浩
松竹映画
クラブボード
提携作品

松竹映画



◆キャスト

棚瀬 紀子……大竹しのぶ
津田 淳子……しほのぶ
(橘まゆみ) 藤 真利子
水野美智子……由布子
棚瀬 秀雄……和
升森 弘……寺尾 聰
藤井 沢子……三田村 邦彦
堂 園……池上 季実子
絹村健一郎……夏八木 勲
絹村 ハナ……北林 谷 榮
枇杷坂周平……石坂 浩二

◆スタッフ

製作 野村 芳太郎
原作 野村 芳樹
脚本 アガサ・クリステイ
「ホロウ・荘の殺人(新潮文庫刊)」
本 竹内 統一 求
監督 古田 統一郎
撮影 野村 芳太郎
美術 川又 昂
音楽デザイン 森田 郷 平
主題曲 杉田 一 夫
「クリステリウム」
唄 安野 ともこ
(キヤニオン・レコード)

松竹・クラツプボード提携作品

危険な女たち

アガサ・クリステイ原作

◆解説

全世界で「聖書」「シェークスピア」に次いで四億五千万部以上も売れているのが、ミステリーの女王、アガサ・クリステイだ。

クリステイの作品は、映像的にも大変興味がもたれ、すでに世界中で二〇作品が映画化され、大ヒットしている。

今回製作される『危険な女たち』の原作「ホロウ・荘の殺人」は、クリステイの作品中、最もドラマチックで、画期的トリックを使った作品として、英・米・仏・豪・日の五ヶ国で映画化権を奪いあった。しかし、登場する女性たちの微妙な心理描写は、日本映画が最も得意としているところ。監督は「配達されない三通の手紙」で実績のある野村芳太郎である。さらに松竹が、アガサ・クリステイのシリーズ化を考えており、その第一弾として、この作品以外には考えられないと強く希望したなどの理由から、遂に、世界で四ヶ国目(英・米・西独)の、そして日本では初のクリステイ作品の映画化が実現すること

○演出ノート

野村 芳太郎

アガサ・クリステイのもつ推理の面白さ……犯人の意外性など……それをどうすれば映像化出来るか……久しぶりに私の、原作への挑戦です。

多彩な登場人物。そのそれぞれのキャラクターの面白さ……そのぶつかり合いが、ドラマを一気にクライマックスにもって行く……そしてラスト……そこでの人間のもつ不思議さ、妖しさ、その悲しみまで描ければ……と思います。

ドロドロしたミルクの中に、何色かの色絵具をしばり込み……ゆつくりかきまわすと、そこにおもいがけぬ華やかな渦がうかび出る。それをみる様なそんな映画にしたいと思っていますのです。

になった。

重要なドラマを演じるのは、大竹しのぶ、藤真利子、和由布子、池上季実子、女として女優として、いま最高にノッている四人。さらに男優も、寺尾聰、三田村邦彦、夏八木勲、石坂浩二、など豪華な充実したキャストینگ。そして国内でも最も美しく、ミステリアスなロケ地として選ばれた神戸・南紀白浜を舞台に華麗な女のドラマと謎の世界を展開する。

邦画界きってのミステリー作品の監督として、野村芳太郎が久々に贈るミステリー・ロマン大作である。

◆物語

朝日に染まり、まるで血が流れたような白浜の海に高さ五〇メートルの絶壁が直立している。この景観を眼下に見おろすようにして絹村家の別荘がある。

この別荘の持主、絹村健一郎は庭から聞こえるロックの音に目を覚ました。

ラジカセから流れるロックに合わせて、健康体操をしている

のは絹村の妻ハナだった。

ハナは、今日から三日間のことを考えると、もうジツとしていられない。それは久しぶりに六人も親しい客が集まるからだ。医者の棚瀬秀雄とその妻紀子、子供の頃からハナに可愛がられて貰っていた藤井沢子、水野美智子、升森弘、そして隣りの別荘の住人で小説家の枇杷坂周平たちである。

小児喘息の療養のため、この別荘に来ている棚瀬夫婦の息子・守も加わってにぎやかに夜会が始まった。話題はもっぱら男性たちの釣り談議……。翌朝には全員で海へ釣りにいくことになっていた。

賑かな夜会も一段落し枇杷坂も帰った。——一人の女性が鉢植えを手に見れた。最近チョット落ち目の歌手・橘まゆみ。自分の借りた別荘の電気がつかなくてこまっているという。

この突然の訪問者を見て驚いたのは、棚瀬秀雄。まゆみと秀雄はかつて結婚を誓った仲だった。まゆみも思わぬ再会に始めは驚いたが、皆に堂々と昔恋人だったことを話し、彼女の別荘の電気の具合を見に行くという秀雄の申出を素直に喜ぶのだった。腕をからませて夜の闇にきえてゆく秀雄とまゆみを別荘の二階の窓から見送るのは、妻紀子の鋭い目。

それぞれの部屋に皆が引きあげたあと、弘は、食堂で水割りを含んでいた。弘は橘まゆみが現れる直前、秀雄と沢子が廊下で指をからめている姿を見てしまった。弘は沢子に何度も結婚を申込んで断わられていたのだ。

湯上り姿で食堂に現れた美智子に、弘は突然結婚を申込んだ。本当は弘を愛している美智子だが、ヤケ酒の勢いでプロポーズをされて、悲しかった。

久々の逢瀬から秀雄がもどったのは、皆が寝静まった深夜だった。常に秀雄に対し献身的で柔順な紀子は、夫に不満も言わずに眠ってしまった。

翌朝。昨夜は何事もなかったように、皆釣りを楽しんでいる。守と枇杷坂、健一郎とハナ、紀子と秀雄、弘と美智子、そして沢子はひとり、とそれぞれの場所で釣りを楽しんでいた。紀子が守を探しに行ったその直後、フツと立ち上がった秀雄の顔が一瞬こわばった。が、すぐさま何事もなかったように、微笑みかけたその時、一発の銃声が響きわたった。

その音を聞いて走ってきた枇杷坂がそこに見たものは、血を流して倒れている秀雄とその傍らで拳銃を握り、ぼう然と立ちつくしている紀子の姿。やはり銃声を聞いて集って来た皆の驚きの顔だった。そして、力強く、意外といった色もなく、切迫した声で「沢子……」と言うなり、秀雄は息たえていった。この時、誰もが拳銃を撃ったのは紀子だと思ったのだが……。

